

## は じ め に

平成 14 年度の当研究所の業績がまとまりましたので、お届け致します。

本年度を振り返りますと、5 月 31 日から 6 月 30 日まで日本と韓国を舞台にサッカーワールドカップ大会が開催され、札幌ドームでも英国対アルゼンチン戦など 3 試合が行われました。このことは喜ばしい出来事でありましたが、当所ではパイオテロ対策に振り回されました。実務としては市の基幹病院の協力を得て症候群別サーベイランスが行われ、開催前後合わせ約 6 週間休日返上で対応しました。

感染症に関しては、米国での西ナイル熱・脳炎の流行を受け、11 月 1 日感染症新法施行規則が一部改正施行され、本疾患が全数把握の四類感染症に追加されました。しかし、何より大きな事件は、年度末の 2003 年 3 月 12 日世界保健機構 (WHO) が出した緊急情報に端を発するものでした。WHO のホームページ上で "severe acute respiratory syndrome (SARS)、重症急性呼吸器症候群" と表現された肺炎の世界的流行で、幸い日本では患者発生が無いまま終息しました。札幌市では 3 月 20 日以降計 4 回対策連絡会議が持たれ、保健所を中心に「重症急性呼吸器症候群対策行動計画」が策定されました。当所でも SARS コロナウイルスの PCR 検査体制が整備され、今後とも情報収集に当たることとなりますが、どの自治体も同様な対応に追われたことと思います。

一方、2001 年 9 月 11 日の米国同時多発テロに端を発するアフガン戦争に続いて 2003 年 3 月 20 日のイラク戦争勃発や北朝鮮問題など暗い世相の中で、2002 年 12 月に明るいニュースとして小柴昌俊氏(物理学賞)と田中耕一氏(化学賞)のノーベル賞ダブル授賞がありました。

当所の業務では、昨年度から始まった胆道閉鎖症マススクリーニングが軌道に乗り、受験率が 95% を越え患者の発見と治療も順調です。感染症関連では、7 月に二つの保育園での腸管出血性大腸菌 O26 による集団感染と 8 月に保育園におけるサルモネラ・ハイデルベルグ食中毒が起こり、その検査に追われました。食品関係では、先年度末から問題になった中国産冷凍野菜の残留農薬が、本年度に入って札幌市でも収去品から基準を越えて検出されました。また、札幌市の食品からのダイオキシン類摂取量調査が行われ、当所でその測定が行われました。

当所のホームページが開設されて 3 年になりますが、改訂を繰り返し行い、特に感染症発生動向調査結果公開ページは健康危機管理の地域連携手段となることを目指しています。このホームページはまた市民啓発のための重要な媒体でもあり、その目的を果たすために今後ともその充実を図って行きたいと考えています。それを条件に、広報紙「ぱぶりっくへるす」は今年度から年 2 回であったのものを 1 回の発刊に踏み切りました。

JICA 関連業務では、7 年目を迎えた都市型水質汚濁防止検査技術研修が、アジア、中近東、東欧から 6 名の研修生を迎え、5 月 20 日から 7 週間行われました。また、12 年目の新生児マススクリーニング研修は 11 月 5 日から 7 週間行われ、アジア、中南米、アフリカ、中近東、東欧からの研修生 10 名は無事研修を終え、クリスマス直前に帰国しました。

このような一年を思い出す中、年報 30 号が完成致しました。どうぞ高覧の上、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。また、当衛生研究所の運営に関し、今後とも、ご指導ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

平成 15(2003)年 11 月

札幌市衛生研究所  
藤田晃三